

【作文】 中学生の部

最優秀賞 誹謗中傷を減らすために

河南中学校 三年 中村 亜美

私は、誹謗中傷は絶対にあつてはならない行為だと思ふ。なぜ何の罪もない人が、どの誰かもわからない人から誹謗中傷を受けなければならぬのか。そして、その行為を私達が止めることはできないのだろうか。

最近、テレビのニュースで「誹謗中傷」という言葉をよく耳にするようになった。インターネット・SNS等で、知らない人から誹謗中傷を受ける人が増えているのだ。私はこの現状について、とても悲しく思つたし、同じ人として恥ずかしくも思つた。自分の素性も明かさないうで、相手の悪口を影で言うなんて、卑怯だと思つた。インターネット・SNS等は、誰かを誹謗中傷して満足するものではなく、自分の意見や考えなどを発信して、多くの人と共有するためのものだ。誹謗中傷を受けても気にしない人は、決して多くはないだろう。人は、他人からの自分の評価を、どうしても気にしてしまう生き物だ。一度自分の誹謗中傷を見たら、その後何度も見えてしまうだろう。そしてそれを見るたびに、じりじりと心が削られていくだろう。いずれ耐えられなくなり、最悪の場合、命を自らの手で落としてしまう人もいる。誹謗中傷は、時に殺人にもつながる行為なのだ。

では、なぜこのような誹謗中傷が起こってしまうのだろうか。私は、その場の勢いで書きこんでしまうからだと思ふ。加害者がテレビなどでその人を見ている時に、少しイラツとして、何の考えもなしにその場で書きこむ。それを見た人も、おもしろ半分の軽い気持ちで誹謗中傷を書き足す。そうやって、軽い気持ちの連鎖で誹謗中傷が行われてしまうのだ。加害者側が、冗談で、軽い気持ちで行つた誹謗中傷を、被害者側は本気で受け止めてしまう。インターネット・SNS等では、お互いの顔が見れないぶん、相手がどのような行為に受け止めてしまつていのかかわからないのだ。このような行為を止めるには、どうしたらよいのだろうか。人は、卑怯で、臆病で、

愚かな生き物だ。私一人がとやかく言つたからといって、誹謗中傷はなくなるものではない。しかし、そう言つてあきらめてしまえば、誹謗中傷はどんどん増えていく。私は、人が生きていく限り、誹謗中傷がゼロになることはないと思ふ。しかし、減らしていくことはできる。誹謗中傷によつて苦しめられ、命を絶とうとしている人を、助けることはできる。もし誹謗中傷を受けている人を見かけたら、私は、加害者側に反発するのではなく、被害者側に声をかけてあげたい。ここで加害者側に怒りをぶつけてしまえば、今度はその加害者も被害者になつてしまふかもしれない。被害者に声をかけ、相談に乗つたり、ほめてあげたり、元気づけるような言葉を言つたりすることが大切だと思ふ。そうすれば、少しでも誹謗中傷を減らすことができるはずだ。

頭ではわかつていても、実際に行動にうつすのは難しい。しかし、ほんの少しの勇気で誰かを救ふことができるかもしれない。救える命があるのなら、救つてほしい。生きる理由がないのなら、生きる理由を探すために生きてほしい。だれもが心から笑つていられる未来が訪れることを、私は願つている。

優秀賞

「私や兄を通して」

双葉中学校 三年 川嶋 天晟

「中学生がマンションから飛び降り自殺・・・」。このようなニュースが流れてきたときあなたはどう思いますか。自分には関係ないと思いますか。それとも興味すら無いですか。私はとても可哀想だと思います。今、あなたの近くで自殺を考えている人がいるかもしれません。あなたがその人の心に寄り添うだけで、その人が救えるかもしれません。

私の兄は耳が悪く、滑舌も少し悪いため、いじめられることが多いありました。私も名前や顔のことで、よくいじめられていました。そんなとき、兄も私も、物にあたってしまうことがあります、様々な人たちに迷惑をかけました。でも、そうすることで落ち着いていられました。世の中には誰にも話せず、心が傷つき続けている人がいます。そんな人の中には、学校に行ってもいじめられるか・・・などの理由で学校に行きたくなくなりそうです。しかし、そのような人が休んでいる状態でも、いじめている人は何も思っていないでしょう。もしかしたら、別の人をいじめているかもしれません。そして、その子も学校に行きたくなくなる・・・このような連鎖を防ぐために、まずは自分が周囲の人に目を配らせ、いじめられている、もしくははいじめられそうな人に寄り添い、話を聞いてあげただけでも、相手は気持ち良くなります。実際、私も一人で抱え込んでいたときに誰かに話を聞いてもらえらる方が楽でした。しかし、そんな人に寄り添うのは大変です。いじめられている人は自分からそのことを言い出すことはできません。だからこそ勇気を出してその人の話を聞き、寄り添い、その人と同じような気持ちになることが大切だと思います。そのような人が増え続けていけば、いじめは次第になくなり誰もが楽しい生活を送ることができると思います。

最近ほとんどの方がインターネットを使用でき、見知らぬ人とやりとりできます。自分と趣味があう人と話が盛り上がる。このような使い方はいいと思います。しかし、このような使い方とは逆に見知らぬ人なのに、「死ぬ」や「消えろ」など、相手に暴言をあげ

ることもできてしまいます。これがインターネットの「怖さ」です。

これらの暴言は一人が書くだけで他の人がおもしろがって書くという連鎖が起りかねません。そして、その人を死に追い込んでしまいかもしれないのです。そのようなことをしても書いた人は、自分が悪いことをしたとは思っていません。自分だけが書いているのではなく周りの人も書いているから・・・。そんな軽はずみな気持ちで、大勢の人が書いたなら全員が悪いのです。自分一人だけでも止めようと「やめよう！暴言をあげさせるのは」などと阻止する声をあげれば、それらの暴言を止めようとしたが勇気がなかった人、見て見ぬふりをしようとした人が立ち上がり、その暴言を阻止する連鎖が新たに生まれます。それが起きれば暴言をあげせられていた人が少しは救われると思います。しかし、阻止したせいで自分に矛先が向くかもしれません。それで自分の心がやられては意味がありません。自分の心を強く持ち、勇気を出して救える人。私はこんな人になりたいです。

いじめは自分には関係ないと思った人、本当にそうでしょうか。自分が知らないだけで、自分の軽はずみな言動で誰かが傷ついているかもしれません。私もいじめられていたときは、とても辛く嫌な気持ちでした。しかし、後から考えると、言っている人はその時、相手が傷ついたかどうかをよくわかっていなかったのでしょうか。でも自分が言った言葉で、この先ずっと相手を傷つけてしまう。そのようなことを、された側の経験者としてなくしたい。そして自分自身も気をつけたいし、みんなも気をつけてほしいと思います。

入選 いじめについて

柏原中学校 一年 高木 葉生

みなさんはいじめをしていますか。いじめをされていませんか。見て見ぬふりをしていませんか。

いじめはなぜ起こってしまうのでしょうか。例えば、十代の利用率が九割を超えるLINEでは、そのグループに無理矢理入れて、その人を他の人たちでいじめるなど、ネットいじめは特に恐ろしいものです。そう私が考える理由は二つあります。一つ目は、顔や名前を他に知られず行うことができるので、自分がやったという自覚がないこと。二つ目は、顔や名前が分からない分、いじめられた側は「もしかしたらこの人がやったのかもしれない」と疑ってしまい、人を信用することができなくなり、その結果、問題を一人で抱え込んでしまいがちになること。いじめてくる人は、この人たちの苦しい気持ちを分かってくれているのでしょうか。いじめられた人がこんな思いをしているのに、自分には関係ないと言ってはいられません。

それでは、いじめを防ぐためにするべきことは何なのでしょう。一つ目は、相手の気持ちを考えて行動するということです。自分では面白半分でやっているけれど、相手はとも傷ついてしまうなんてことが起こったことではないでしょうか。もしそのようなことが起こってしまったとき、自分がやったことをよくよく思い出して、これはしてもよかったことなのか、これは悪いことなのかということを考えて直してみよう。

そして、いじめを防ぐ二つ目は、いじめをしている側の問題にも目を向けるということです。いじめをする側の多くの人は、心や家族に問題をかかえていると言われています。家族の場合、「子どもに無関心な家庭」や「ぎやく待家族」「放任家族」の三つの問題が発生してしまっているそうです。また、特性には「自分に自信がない」

「自分が好きになれずにコンプレックスをかかえている」「小学校時代の被害者が中学校では加害者になる」などが挙げられるそうです。そのため、いじめる側にも目を向け、その問題を解決しようとする

することも大切です。

いじめ防止の三つ目は、いじめは絶対にしてはいけないという意識を持つことです。いじめは「犯罪」です。だから、たとえ自分の悪口を言う人がいたとしても、その人をいじめていいということにはなりません。被害者が加害者にいじめの仕返しをするなどということ、それは絶対にしてはいけないことです。

いじめは絶対に許せないことです。自分と違うということはいじめの対象にする人がいますが、人はそれぞれ違ってあたりまえですから、いじめの理由にはなりません。それに、普段、身近にあるインターネットまでいじめに使われています。それほど、いじめは増え続けています。自分が被害者にも加害者にもならないためにも、相手の気持ちを考え、自分のことも相手のことも大切にするという意識を持っていきたいです。

いじめについて改めて考えてみて、思ったことがあります。これからたくさん友達を増やすためには、自分が望まないのに一人になつてしまっている人と一緒にしゃべったり遊んだりするといいのではないのでしょうか。そうすればいじめもいづかなくなっていくのではないのでしょうか。ひとりぼっちの子がいたら、声をかけて、みんなと一緒に、楽しく一日を過ごせるといい。ひとりぼっちを作らないこと、いじめのない世界を作ってたくさんの人と仲良くすること、もしも誰かにいじめられたり、いじめている人を見かけたりしたら、ためらわず、家族や身近な大人に相談すること、こういう身近なことに目を向け、進んで実行していきたいと思えます。